

寄稿

放射能付着の 《災害廃棄物》を 汚染の低い地域に 移動させていいのか



立川市議会議員 大沢ゆたか

.....放射能が付着する災害廃棄物

3月11日の東日本大震災によって東北地方には大変大きな災害がもたらされました。さらに同時に起きた東京電力福島第一原発による人災事故は、首都圏や信越地方にまで放射能を飛散させるというかつてない影響を与えてしまいました。私は4月に福島県いわき市へ出向き、被災地の現状把握と原発から20km圏ぎりぎりの地域を200km程走行し、放射線量の測定を行ってきました。また、7月にもその後の被災地の状況を確認するためにいわき市を訪問しました。4月に行った時、いわき市の北部の海岸線（小名浜、永崎、豊間、薄磯の海岸地域）を訪ねましたが、この時点では被災地は瓦礫が散乱し重機が動いてやっと瓦礫の撤去が始まっているところでした。

7月の時点では瓦礫はほぼ撤去されて建物の基礎だけが残っているという状況でした。しかし、その瓦礫は例えば豊間中学校のプールのある敷地にカバーも無く、うず高く積み重ねられているだけで、周囲は何とも埃っぽい風が舞っていてマスクをせざるをえませんでした。一日も早くこの瓦礫を撤去してあげなくてはならないと強く思いました。しかし、放射線量はあちこちで高線量（立川の5～8倍）が計測されていました。

...災害廃棄物は他地域の清掃工場で焼却

災害廃棄物は岩手、宮城、福島の3県で約2400万トンの可燃ごみは700万トンにも及びます。環境省は4月に全国の自治体に災害廃棄物の受け入れを打診し、5月には全国500以上の自治体が受け入れ可能と回答をしました。しかし、首都圏では23区の水道水から放射能が検出され、5月には下水汚泥の焼却灰から高濃度の放射能がでて、7月には一般廃棄物の焼却灰からも放射能が検出され自治体の通常業務に大きな影響が出てきました。そして各地で災害廃棄物を受け入れ焼却することへの疑問の声が上がり始めました。

東京では主に宮城県（調整中で確定ではないかも）の可燃性廃棄物などを3年間で50万トン、今年度で16万トン受け入れる予定で話が進んでいます。多摩地域ではその内3年間で16万トンを引き受けるというのです。災害廃棄物は船で東京に運ばれ、そこで10トントラックに積み替えられ各清掃工場へと搬入されるというのです。

受け入れる清掃工場は7つ（八王子市戸吹清掃工場、町田市、日野市、柳泉園組合、西多摩衛生組合、多摩川衛生組合、多摩ニュータウン環境組合）の中間処理施設です。まだ正式に受諾の返事はしていないと思いますが、災害廃棄物に付着する放射能の問題が大変重要な課題となるはずですよ。

..... 多摩地域の清掃工場の飛灰から
高濃度のセシウム検出

7月に行われた一般廃棄物焼却施設における焼却灰などの放射性物質の測定結果が8月に発表になりました。三多摩地域ではその焼却灰は全量、日の出町の二ツ塚処分場に搬入され、エコセメントに加工されます。それぞれの清掃工場でも焼却された飛灰から270Bq/kg～3400Bq/kgのセシウムが検出されています。排ガスからは不検出とされています。

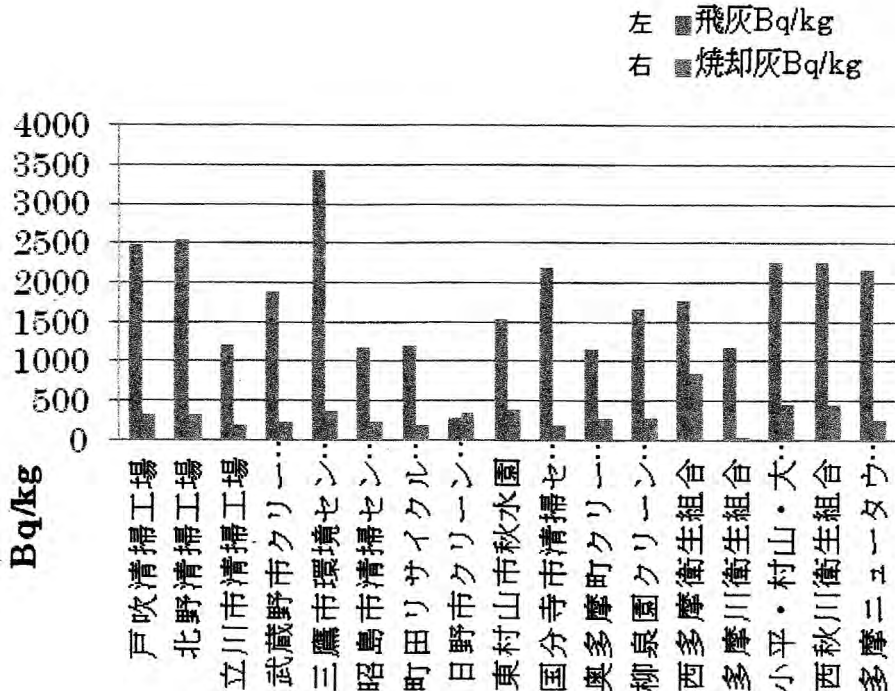
また、清掃工場ごとにセシウムの値が大きく違っており、三鷹市では大変高く、日野市では飛灰の値が主灰よりも低くなっている、理由が分かりません。つまり清掃工場の排ガス防止の機能や灰の処理方法がまちまちであることが考えられるということです。データの積み重ねを待ちたいと思います。

... エコセメント工場の下水道放流水からも

さらに、日の出町に集められる焼却灰で造られるエコセメントの安全性の問題と製造過程で排出される排気ガスや排水に有害物が含まれていることに加え、放射性物質の近隣地域への拡散が大きな問題になります。今回はエコセメント工場からの公共下水道への排水と、製造工程で山元還元される重金属に放射能が存在することが、資源循環組合の調査で判明しました。しかし、そのエコセメント工場での大気への放射性物質の排出はないとしています。本当にそうでしょうか。

下水道放流水にはセシウム134で311Bq/kg、セシウム137で367Bq/kgの放射性物質が検出されています。この8月27日に開催された「災害廃棄物安全評価検討会・第6回」で提出されている資料「8000Bq/kgを超え100000Bq/kg以下の焼却灰の処分方法に関する方針（案）」の中に「…管理型処分場からの排水のモニタリン

三多摩清掃工場焼却灰含有セシウム合計



グとして…『実用発電用原子炉の設置、運転等に関する規則の規定に基づく線量限度を定める告示』の中に…『3月間の平均濃度がセシウム134で60Bq/L、セシウム137で90Bq/L』を目安として排水処理を行う」となっています。単位のkgとLはほぼ同一でしょうから、この基準で考えると公共下水道に排水するのは問題がありそうです。その他にも排ガスやエコセメント製品には不検出とあることも疑問です。

放射性物質の測定についてはたった1回の測定では実態はつかめないと思います、もう少しデータが積み重ねられるのを待って科学的な議論をするべきでしょう。

.....放射性物質が日の出町に集中

三多摩地域のごみを日の出町一か所に集めると、大沢の試算で1年間で総量480億ベクレルの放射能が集中することになります。これはエコセメント化施設や日の出・青梅の地域にどん

な影響を与えるか真剣に検討されなければなりません。新たなごみ問題、新たな被曝問題として考えなければならぬでしょう。

災害廃棄物焼却問題は放射性物質を三多摩地域に、最終的には日の出町に持ち込むことになります。三多摩地域は首都圏の中では比較的放射能の影響が小さいと思われ、福島から小さなお子さんを持つ家族が避難してきています。こうした地域にさらに放射能汚染を持ちこむことが明白な災害廃棄物の持ち込みには、私は反対です。この点については、今一度その処理のあり方をみんなで再検討すべきです。

こうした結果をもたらした原発の稼働を強引に進めてきたこれまでの自民党、公明党政権、それを容認した民主党と電力会社への批判をし、これらにかかる経費については東京電力に各自治体が損害賠償を求めていくことも必要です。そして改めて原子力発電をなくしていく努力を合わせて行っていく必要があります。

いのの 編集後記 拡大版 です。

編集担当の*いの*です。

先月末、せっかく休みをとったのに、予定していた登山の計画が流れてしまいました。そこで、ずっと気になりながらも思い切れなかった「被災地のボランティア」に行くことにしました。服装や用具は登山装備のままでもいいし、「体力に自信あり」なら何とかなるでしょ、と思つて調べてみたら、初心者にぴったりの「日帰りボランティア・ツアー」がありました。

金曜夜、東京駅↓新宿駅↓池袋駅↓さいたま新都心駅↓で参加者計40名を集めたバスは、暗い東北道を宮城県亘理郡山元町へ。参加者の男女比はほぼ半々。20〜40代前半がほとんど。還暦前後かなというおじさんが数人。還暦近いおばさんは：私だけかも。このバスツアーは7月から毎週末催行されているそうで、毎回ほぼ満員とのこと。職場から直行の人もいっぱいいることが、その格好からわかる。8500円を負担して仕事帰りにボランティア：たいしたものです！

時間調整をしながら、8時半に山元町役場のボランティアセンターに到着。どんな作業をするのかは着くまでわかりません。この日の作業は、数日前に立ち入り禁止が解除されたばかりの住宅地の側溝の泥出し。余震で津波が来る場合口の「逃げる方向」を教わってから作業開始です。

一区画向こうには、秋田大学の揃いのTシャツを来た逞しい男子学生が同じ作業をしていて、いかにも「使えそう」だ。こっちは寄せ集めチームで、見るからに「大丈夫か？」って感じ。それでも作業が始まると、スコップなんて持ったことのないような女の子や男の子たちが不器用に、それでも一生懸命に土を掘り、土嚢袋に入れていく。

時おり目を上げると、このあたりを襲った津波が破壊した家々が目に入る。山元町は人口1万7000人足らずで、614人の犠牲者を出しています。(16Pに続く)